

2 ポスト更年期の泌尿器科女性患者の併発する気象病に対する漢方薬の効果

女性医療クリニック LUNA ネクストステージ、
女性医療クリニック LUNA 横浜元町

関口 由紀、中村 綾子、槍沢 ゆかり、藤崎 章子、
金子 容子、永井 美江、中村 仁美

【はじめに】 ポスト更年期とは、主に閉経後約3年以降からの女性ホルモン分泌が低値で安定してから時期のことを指す。女性ホルモンの変動がなくなると、自律神経失調症状と精神神経症状は落ち着く。しかしその後生活習慣病の悪化や、骨粗しょう症、GSM(閉経関連尿路性器症候群)、ロコモティブシンドローム、認知症などの問題がでてくる。さらにこの時期のQOLを落とす症状に気象病がある。気象病とは、気候や天気の変化が原因でおこる不調の総称で、頭痛やめまい、疲労感、関節痛、うつ、吐き気、喘息などの症状が起こるとされている。虚証のポスト更年期の女性の気象病に関して、防已黄耆湯が有効であった2症例を提示する。

症例1：65歳女性

【主訴】 頻尿、天気の悪化による全身倦怠感、下肢のむくみ

【現病歴】過活動膀胱でミベクロン50mgを投与中、天気の悪化による全身倦怠感、下肢のむくみを訴えた。

【現症】 舌：白苔は少ない、歯痕も少ない、腹：かえる腹、下肢：指圧痕は軽度

【経過】 ツムラ防已黄耆湯7.5g 3×食前を開始した。1か月内服後から主訴は80%改善した。天気予報に注意して、天候悪化時は、飲水量を調整し、アルコールや白砂糖のはいった菓子類、かんきつ類、塩分の多い食品を控えるように指導して経過観察中である。

症例2：58歳女性

【主訴】 尿失禁、天気の悪化時の頭痛、下肢のむくみ

【現病歴】腹圧性尿失禁で、個別骨盤底リハビリテーション中、天気の悪化時の頭痛、下肢のむくみを訴えた。

【現症】舌：白苔(+)、歯痕軽度、腹：かえる腹、下肢：指圧痕(+)

【経過】ツムラ防已黄耆湯7.5g 3×食前を開始した。やや肥満あるため運動指導施行。内服後3か月から頭痛はかなり改善傾向になった。症例1と同様の養生法を説明し、経過観察中である。

【考察】防已黄耆湯は、ポスト更年期の女性の気象病を改善する可能性が示唆された。